



9月号
2022・9 No.484
(発行者)
大本三河本苑
〒443-0031
蒲郡市竹島町28-5
TEL.0533-69-7518
FAX0533-69-1455

お知らせ

第20回
〈青松会〉
全国一斉世界平和祈願について
【日時】9月11日(日) 午後7時〜8時
【目的】世界の恒久平和実現のため、全信徒が一丸となって世界平和祈願を行い、みづく建設のご用に「奉仕させていただく。」

教主さま様ご親教 三河本苑設立50周年記念秋季大祭

のご案内

大祭執行委員長 加藤 三樹

- 【日時】2022年10月16日(日)午前10時より
- 【場所】大本三河本苑
- 【ご面会】各機関毎に
- 【諸行事】「大本三河本苑」看板除幕式・冠沓句巻開

10月16日、教主さまをお迎えして

大祭執行委員長 ごあいさつ

本苑長：加藤 三樹
いよいよ2か月後の10月16日、教主さまをお迎えして、本苑設立50周年記念秋季大祭、並びに新しい神の家完成奉告祭を執行致します。大祭執行の準備、教主さまお迎えの準備、誠にありがとうございます。

当日の諸行事についてお話しします。朝9時に、教主さまを新しい神の家でお出迎えます。祭典は10時より、本苑設立50周年記念秋季大祭、新しい神の家完成奉告祭、市杵島姫命様遥拝祭、そしてこの度、玄關横に移設しました尊師さま歌碑のお歌を朗詠します。なお祖霊慰霊大祭は行わず、翌月11月に執行します。

祭典後、教主さまより「不動の信」の染筆をご下付賜ります。皆様には色紙にし、

記念品としてお渡します。合わせて皆様には記念品として、50年記念誌、タイトル「不動の信仰の足跡」をお渡しします。20年記念誌で本苑活動の足跡を詳しく掲載しましたが、その後30年の足跡を、また今回の新しい神の家建設の足跡を紹介いたします。写真を分段に入れてデジタル的でわかりやすい、また多くの方に原稿を作成していただいて皆で作った記念誌となりました。ご協力、ご尽力、誠にありがとうございます。

記念品ご下付の後、小林龍雄本部長ご挨拶、本苑長挨拶に続き、冠沓句巻開きを開催します。記念大祭に相応しい冠題、沓題に決まりました。新しい神の家で50周年を迎える三河本苑信徒お一人おひとりの思いを、冠沓句でもって教主さまにお伝えしたいと思えます。締め切りは来月9月18日本苑月次祭までです。一人でも多くの方の投稿をお待ちしています。

その後、直会前に、正面玄關表札の除幕式を行います。教主さまより賜りました表札文字「大本三河本苑」のご真筆を披露いたします。楽しみにして下さい。

教主さまご親教三河本苑設立50周年記念秋季大祭 冠沓句募集

【冠題】・新しく

・三河から

・まごころして

・大和合

【沓題】・第一歩

・神の家

【締切り】9月18日(日)

本苑9月月次祭

三河本苑公式LINE



↑ コチラから
本苑だより更新中

9月の行事

●18日(日)

本苑9月月次祭

・敬老会

●25日(日)

宣伝使・宣伝使になるための研修会

10月の行事

●16日(日)

三河本苑設立50周年秋季大祭

・冠沓句巻開き表彰
・正面玄關表札除幕式

直会后、ご面会をします。教主さまのご負担を考慮し、時間は1時間、紹介する信徒数は、40周年記念大祭ご面会時の約半数の160名とします。ご神前大広間の椅子席に座っていただき、機関毎に紹介します。教主さまには名簿をご覧いただきながら、お一人おひとり、お名前だけを紹介いたします。信徒紹介をもって全行事を終了し、教主さまのお帰りは午後3時を予定しています。

誠心会「万祥殿献劳奉仕」報告

日時：令和4年7月24日(日) 誠心会長 三浦 浩

今回より東海教区の方も交えての御奉仕でしたが、全国のコロナ感染者数が過去最大の状況となりました当日行動制限はありませんでしたが見合わせる方もおられました。

当日は暑い中、皆様には作業を手際よく済ましていただき早めに終えることが出来ました。



「スワット」のすすめ

西尾支部 調子温子

ちよつとした段差につまずいたり、ペットボトルの蓋が開けにくいと感じた事はありませんか。それは、まさに加齢による筋肉の低下が原因です。

これにより私は2年前、膝に水が溜まりその痛みで歩けない状態になり一時は車イス、松葉杖で生活するほどでした。このまま歩けなくなるのではという、絶望と無気力な日々を送っていました。

そんな中で、ある信者さんの一言で目の前が明るくなり希望を持つことができました。

私の体験談

その方の体験上、一体操をすると直

ります」という事でした。一念発起、その日から毎日時間を決めて体操を続け

ました。特に有効だったのが「スクワット」です。いつでもどこでも出来ます。筋力がつくまでに3ヶ月かかるそうです。カレンダーに3ヶ月目の印をつけて励み

ました。不思議なことに、体操のお蔭で徐々に腫れも引き痛みも軽くなって、大分歩けるようになりました。

今回の経験で筋力がいかに大事かということをつくづく感じました。そして、運動すれば筋肉は必ずついてきます。

人生百年時代と言われる今、最後まで自分の足で歩けるよう、毎日スクワットをして頑張りたいと思います。

三代さまと「観音さま」

「みろくのよ」平成28年3月号 田辺謙二氏より

特任宣伝使 芝田豊海

「三代さまのご神格については『木花咲耶姫の命』と示されている。また『三代直日は天教山木の花姫の精霊くだり給う肉の宮なり』との神示もあり、『木の花姫神即観音即伊都能売神』と示された箇所もある。

どうも三代さまと観音さまは、深いゆかりがおありのようである。今回は三代さまと観音さまにまつわる逸話を断片的に三点お伝えしたい。…中略…

最後は、伊都能売観音像の制作に関して。金重陶陽師により昭和二十八年(初回)に制作された神像で、大本モンゴル本部、ブラジルの大本インテルナツィアにも奉斎されている。陶陽師にとり細かな造り物は得意の分野であった。しかし、観音像のお顔には悩まれたようである。

そんなある日、陶陽師を伴い、三代さまが葉がくれ居に戻られた時のこと。三代さまは、そのまま横になって寝てしまわれる。陶陽師は、お休みのお顔を見て『これだっ!』と直感し、すぐに写生し、粘土をもって観音像を制作される。そうしてできあがったのが伊都能売観音像である。像のモデルは三代さまである。

数年前から「伊都能売観音像」を祀っている信徒宅での月次祭では、観音像にも「天津祝詞」を奏上しています。

わたくしも、一年前、ある信徒さんより「伊都能売観音像」を譲り受け、我が家も親しみをもって朝夕拝、月次祭では「天津祝詞」を奏上しています。

コラム 「和合」

Sさん

仲良しとはどついついことか? 論語では「子曰わく、君子は和して同せず、小人は同じて和せず」という言葉があります。「君子は、人とは仲よくするが雷同することはない(いたづらに群れない)。小人は、すぐ雷同するが(群れるが)、大切な時には協力しない」の意。「和」とは混ざり合うこと。

の字を用いた言葉には、「和む」とか「和氣藹々(わきあいあい)」とか「柔和」「温和」などがあります。そして、何となく「平和」という言葉も出てくる。思いつく人がたくさんいるでしょう。

ところが、「論語」の「和」の意味がちよつと違います。実は和には「うまくまじり合う」という、もう一つの意味があるのです。この意味で「和」を使う言葉に「和音」

があります。和音とは、3つ以上の高さの音が同時に響くことを言います。この響きに私たちは心地よい響きを感じます。人間社会では、意見の相違により「仲良くなれない」「意見がまとまらない」などトラブルが多い。今回の「神の家建設」「50年記念誌」にあたっても然り。当初は意見がまとまらず思うように進みませんでした。しかし、知らずし

「マイ祝詞」「マイ箸」「マイボトル」「マイボトル」持参でお願いします

連載 大本のぼれ話